

国際協力銀行開発金融研究所（JBICI）の活動状況と課題

1. JBICI の組織・活動内容

- (1) 旧輸銀と旧基金の系譜を引く。
- (2) 組織：総務課、開発政策支援班、開発研究グループ、国際交流班、海外投資研究班、国際金融グループ
- (3) 機能： 開発援助、国際金融、海外直接投資に関する調査、研究を実施。業務部門での事業実施、融資判断の関連情報、また開発途上国への政策提言としての活用。
調査研究内容の情報発信、他の研究機関等との研究交流活動

2. JBICI の目指すもの(開発関連)

- (1) 本来業務たる JBIC の資金協力を踏まえつつ、知的側面での貢献を図る
- (2) JBIC としての「現場経験」に基づく援助の理論的整理と提言
- (3) 援助と投資・貿易等他関連分野の関連性を総合的に把握すること
- (4) アジアの開発経験の検証（日本の援助、貿易・投資が果たしてきた役割と課題
- (5) アジアの開発経験の他地域（アフリカ等）への適用可能性を探ること
- (6) 広域開発の視点から調査
- (7) 他援助国・機関の援助政策・動向調査
- (8) 日本内外の研究関連機関との交流、情報共有・共同研究促進 等。

3. 最近の活動実績・計画具体例

- (1) GDN：当研究所は2001年度よりGDNの日本ハブとしての役割を果たし始めた。開発関連の研究者間情報交換、知識共有化、共同研究活動などの橋渡しを世界と日本の間で行う。
本年年次会合は1月にカイロで開催。次回は来年1月にニューデリーで開催予定。JBICは年次会合において分科会開催等で貢献。本年3月には東京で日本ハブの会合も開いた。
- (2) SADEP 調査（開発政策・事業支援調査）：開発政策・事業に係る体系的調査、政策提言を行い、開発政策・事業の効率的形成と実施

を図る。96年度より開始。(開発政策支援班が所掌)

これまでにインドにおける政策金融の役割、途上国実施機関の組織能力改善、ベトナム都市交通改善策、開発途上国と公共支出管理、紛争と開発とJBICの役割、アジアの高等教育市場の発展と国際化等の調査を実施。

2003年度は中南米上下水道分野における民活導入、東アジアのインフラ等の調査を計画。

- (3) 開発研究：開発援助理論、開発援助機関の動向に係る調査研究などを行う。2001年度より開発研究グループ発足により開始。

インフラ整備による貧困緩和効果、アジアにおける Pro-poor Growth とアフリカへの応用、英国援助動向調査などを実施中。

2003年度は21世紀の開発援助戦略研究アドバイザリー委員会、貧困分析モデルのインドへの適用調査、フランス・北欧援助動向調査などを計画。

またアフリカ開発セミナーのセネガル(6月)、ケニア・タンザニア(9月)における開催もJBICの関係部署と連携しつつ実施。

- (4) セミナー開催：途上国開発実務関係者を招聘し研修を実施(交流班が担当)。JICA 連携セミナーの枠で公的資金協力セミナー、分野別セミナー(プロジェクト評価、公害対策、債務管理、灌漑水管理等)を開催。この他JBIC主催で国際金融セミナー、国際シンポジウムなどを行っている。今年度は初めて在京途上国大使館向けセミナーも行った(7月)。

- (5) 調査研究関連レポート出版：調査研究成果の情報発信のため、開発金融研究所報(四半期ベース)、各種リサーチペーパー(アドホック)などを出版。また国際協力便覧(年1回)を出版。

研究所情報の外部への提供は外部公開HPで行っている他、メール配信サービスの活用も検討中。

以上